

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4271200554		
法人名	社会福祉法人 愛隣会		
事業所名	グルーホーム はさみ里		
所在地	長崎県東彼杵郡波佐見町稗木場郷798-1		
自己評価作成日	令和5年7月13日	評価結果市町村受理日	令和5年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとは何か？グループホームで出来る事は何か？ユニットケアとは？をもとに入居者様1人1人に特化したケアを提供させて頂くために、職員が1つの目標立て、どうすれば目標を達成できるのか？を考え検討し他職員と共有しながら、これまで過ごして来られた過程も大切に「当たり前の事を毎日」を少しずつ行っている。各委員会の出席や勉強会、研修への参加も行っている。職員の部署内異動があり、業務優先ではなく各部署からの良い所取りで大幅に業務改善も行っている(途中でもある)コロナ感染拡大の為、地域との交流が全く出来ていなかった。今後は以前行っていたように地域との関わりも徐々に増やして行ければと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは社会福祉法人を運営母体とし、敷地には特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ショートステイが隣接している。現在、ユニット間で行き来ができる定員6名の新たなユニットの立ち上げを進めている。管理者は運営のマンネリ化防止や、入居者が何をしている時が一番楽しいと感じているかを知り、認知症の特性やグループホームとは何かといった基本を再認識する必要性を重視し、他の事業所の良い事例を学び、職員とのコミュニケーションを図りながらホームの運営に活かすよう取り組んでいる。また、系列事業所間の異動を通じて職員の育成や成長の促進に繋げ、組織全体の活性化を図ると共に、より良いホームづくりに努めている。これまでコロナ禍により地域と関わる機会が減少していたが、管理者は、避難訓練やホーム行事に地域住民に参加を促すなど交流できるよう取り組む意向であり、今後も地域に根差したホームとして期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 りんご

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念はあるが、申し送り時などで全て読み上げを行っているわけではない。その中の1つ「楽しい雰囲気を作る」という理念は日常生活の中で常に心掛けるようにしている。その他の理念も共有し1つずつ実践につなげられるように努力している	5つの理念があり、その中でも『楽しい雰囲気を作る』ことに特に力を入れ、全職員が理念を意識して日々の支援に努めている。また、他の理念もそれぞれ意識し、理念に沿った支援ができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染が拡大する前までは地域との関わりがあったが、コロナ禍で地域との付き合いも殆どない	ホームはこれまで地域との繋がりや協力体制を構築していたが、コロナ禍により地域との関わりは少ない。管理者は、今後、以前のように避難訓練やホーム行事等へ地域住民の参加を促し、交流できる場を設けたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方のみ認知症の方の行動や支援方法を伝える機会はあるが、地域の人々に向けて活かす事は出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催(昨年1回のみ書面報告)入居者様の日常生活報告・職員の入退職・消防避難訓練報告・事故ヒヤリハット報告・その他質疑応答などを行い、様々な意見を出して頂き少しずつサービスの向上に活かしている	運営推進会議は行政職員・民生委員・家族2名を構成メンバーとし、対面による会議を基本として行っている。入居者の状況報告、事故・ヒヤリハット報告、ホーム行事等について報告し、メンバーからの質問や意見に応え、質疑応答内容が分かる議事録を残している。	例えば、運営推進会議に参加していない家族にも運営推進会議録を送付したり、必要な部分を抜粋して施設が発行する新聞に掲載するなどのほか、議事録を玄関に設置するなど、家族の意見や要望を聞く機会を増やし、更なるサービスの向上に活かすことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問に思った事や分からない事などは直ぐに連絡し相談するようにしている。又市町村へ提出しなければならない書類など持って行った際、再度同じ事でも聞くようにしている	運営推進会議メンバーである行政職員へ相談したり、介護認定調査結果を確認するなど関係機関と連絡を取っている。また、地域包括支援センターの依頼で介護する家族向けに「ケアネットはさみ」、「おしゃべりカフェ」などの場を通じて、車椅子介助や衣類の着脱、おむつ交換といった介護技術を伝える機会を持つなど行政や系列事業所と連携して地域支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会への参加を行い、環境面での抜き打ちチェックで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。クリップセンサーやセンサーマット使用の状況表など用いている。何が身体拘束で、どこが身体拘束になるのか研修や勉強会への参加	法人内に身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回、各部署の委員が参集して同委員会を開催している。ホームの担当身体拘束廃止委員が身体拘束に関する資料を職員へ配布し、テーマに沿った質問内容へ回答後、集計したものを同委員会に諮り検討している。その後、検討内容を職員間で共有し、何が身体拘束に該当するのかなど身体拘束への理解を深めている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会より、自己チェックシート配布などで自己評価を行い虐待に繋がるような言動を見聞きしていないか？アンケートなどで虐待が見過ごされる事が無いようにしている。解決策も提案してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度については学ぶ機会が少なく研修や勉強会も行えていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より担当ケアマネとを連絡を密に取り、家族様・本人様が何を1番不安に思っているか聞き、入居時に直接尋ねるようにしている。改定時は書面を送付し、更に電話での連絡で再度説明。理解と了承を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望をなど尋ねたり、意見箱を設置している。意見や要望は運営推進会議などで伝えたり、上司へも報告行い運営に反映させるよう努力している。	職員は入居者との日頃の会話の中から意向の把握に努め、家族の意見は面会や電話連絡時に聞き取っている。玄関に意見箱やアンケート用紙を設置している。入居者を担当する職員が中心となり、入居者や家族に対し必要事項の伝達や連絡を行っている。	管理者は、最終責任は自分にあるとした上で、入居者を担当する職員が入居者支援や家族との連絡等について責任を持って対応できるよう一任している。尚、入居者毎の担当制であっても家族の意見や要望があった場合は管理者をはじめ他の職員と情報共有することが必要不可欠であることから、今後、連絡ノート等に記録を残し職員全員が目を通すと共に、担当職員以外の職員と情報共有ができるよう取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を聞くために管理者の方から常に声をかけ運営に関する事も聞くようにしている。必要であれば職員会議の時、上司(施設長)も同席したり個々の面談で意見を出す機会がある	職員は毎月の職員会議で担当する入居者に関する留意事項や提案を述べる機会があり、実践に活かしている。施設長や各ユニットの管理者は、職員の意見や個人的な相談にはいつでも対応する姿勢を持ち、職員が不安なく職務を遂行できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、賞与に関しての説明あり。年度末に人事考課もある。職員会議や緊急ミーティングの時は時間外手当もある。環境面では職員が動きやすいように、職員自ら提案したり不要な物は片付けたり修理も含め整備も少しずつ行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や順番に資格取得、個人個人が行きたいと思う研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川棚・波佐見町のグループホーム協議会への参加。グループホーム協議会の中での職員同士の交流会を行い、他施設の状況や問題点など積極的に出し合い、サービスの質の向上の取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来られた時や自宅を訪問した時に困った事や不安に思っている事を尋ね、その時答えられる事には答える事にしている。答えられなかった事に対しては後日伝えるようにし、関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様への対応と同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時や訪問時に、本人様と家族様、担当ケアマネジャーより、必要としている支援を尋ね、入居時に再度確認のために尋ねる。同じ事を言われた時はそのままサービス対応を行うが、違っていた時は話し合い、優先する内容を見極める		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で何ができるのか？を担当はじめ他職員同士で話し合いながら共有し、洗濯物たたみやお盆拭きなど他入居者様と共に行って頂き、更に出来る事はないか…出来ない所を入居者様同士で助け合ったり関係性を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限がされていたが、5類になり制限も緩和され居室での面会が出来ている。また家族様への連絡など職員が行う際は面会に来て頂けるよう声掛けなど行い、本人様と家族様の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで故郷巡りを行い、自宅前や馴染の場所との関係が途切れないようにしている。ユニットの行き来で、知り合いの入居者様と話したり交流も行っている。	コロナ禍で入居者の馴染みの場所との関係を継続することが困難な中、入居者の昔馴染みの場所や自宅周辺へドライブに行くなど可能な範囲で関係を継続できるよう支援している。面会時間は制限を設けているが、入居者の友人や知人が訪問した場合も対応できるよう体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ地域であれば、知り合いではないか？共通の知っている人がいないか？など職員が間に入り交流を持って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族様より年賀状が届く。必要に応じての経過フォローや相談支援は今の所ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまで過ごされていた過程を大切に、ケアプラン作成時には意向の把握に努めている。困難時には本人様が家族様に伝えていた事などないか伺い検討も行っている	職員は入居者が発する言葉の中から意向を把握している。また、職員が家族との面会や電話連絡時に意向や希望を聞き取っている。把握した内容に応じて介護計画に反映している。家族より聞き取った情報を全職員と情報共有ができていないことが今後の課題と言える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や担当ケアマネジャーより情報を聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当制にしているが、担当が中心となり1人1人の過ごし方や心身状態を全職員が共有・把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が作成したケアプラン内容への変更など担当者が意見を出し、本人様・家族様への聞き取りも行いながら、他職種からの意見もケアプランに反映させ計画を作成している。	担当職員が入居者との会話や家族との面会時や電話連絡を通じて意向を確認し、課題分析に繋げている。計画作成担当者である管理者が介護計画の原案を作成して職員へレターケースにより配布し、意見等の追加事項があれば原案に追記して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って、反映させた内容を記入している。見直しの際には、1つの目標と達成できるように計画を立案し職員間で共有し新たな見直しとしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状態や状況に応じ、必ず居室で休むのではなく、ベッドをリビングに出して休んで頂いたりソファで休んで頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源とはなんなのか？を勉強会で行う事から取り組みが必要。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はコロナ禍の為、職員が状態等を報告している。入居者様は入居後、波佐見病院のDrが主治医となっている。	医療機関への受診は、入居時に本人や家族に説明と同意を得て、同法人の系列病院をかかりつけ医としている。他科への受診に同行する場合も職員が支援し、服薬内容の変更や検査後の結果を家族へ報告している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医へ状態報告を毎月行っている。有症時はその都度、かかりつけ医へ報告し指示を仰ぐ。その他の医療機関への受診が必要となった場合は、家族様も含め面談調整や看護師から家族様への状況説明を行う。本院・家族様の意向を確認し他科受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師が24時間対応できる体制をとっている。看護師より介護職員に対し、入居者様の日頃の体調や様子の変化・気づきがあれば報告するよう伝達し異常の早期対応に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態悪化等あれば直ぐに家族様へ連絡を行っている。また、主治医より看取り期との指示後、ケアプランの見直し・職員間の情報共有に努めている。	入居時に本人や家族に対しホームの看取り支援について方針や、ホームでできること、できないことを説明し、意思確認と同意を得ると共に、年1回、家族へ看取り支援について聞き取りを行っている。看取り期の判断はかかりつけ医が行い、家族へ説明し意向を確認した上で希望に応じた看取りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、職員間での差がある為、その差を少しでも小さく出来るよう、訓練等を行っていきたいと思っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回消防避難訓練を行っている。コロナ禍の中、地域住民の方との訓練は出来ていない。災害対策のシュミレーションは職員に伝えているが、実際避難場所へいく事は出来ていない。	佐世保東消防署波佐見出張所の署員による立ち合いの下、夜間想定避難・消火・通報避難訓練や、大雨・土砂災害を想定したシュミレーション訓練を実施している。ホームは土砂災害の危険区域となっており、ハザードマップを事務所に掲示している。備蓄は法人により管理し、各ユニットで飲料水を確保している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会への参加で、日々の声掛けなどの勉強会を行っている。プライバシーに関しては耳が遠い方も多々入居されている為、難しいところがある。	法人内に各部署の職員で構成した接遇委員会を設置し、月1回、同委員会を開催している。委員会開催後、出席した委員がホームに持ち帰り、翌日にホーム職員へ伝達し周知している。接遇について、職員は自己チェックや他者チェックにより、職員自身の接遇マナーを振り返る機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務優先になり、入居者様とゆっくり時間をかけて過ごすことができていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴など職員の都合や1日のスケジュールに入居者様を合わせて変更する事がある。入居者様の体調によって睡眠時間が変わってくるが休まれていても朝食だからと起床介助することもある。本人様の体調に合わせ対応するよう指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎回同じ服にならない様、入浴後の服選びを行っている。3ヶ月に1度の訪問美容を利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注(はさみ荘厨房)の為、なかなか1人1人の好みには対応出来ていない。お盆や茶碗洗い、茶碗を拭いて頂いている。	食事は同法人の特別養護老人ホーム厨房で調理したものを提供し、炊飯やキザミやトロミなど食事形態の加工をホームで行っている。その為、入居者が好む食事の提供は難しいが、誕生日には厨房で副菜と汁物、その他は入居者の希望に応じてホームで手作りの食事を提供するなど、入居者が楽しく食事ができる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注(はさみ荘厨房)の為、バランスは取れていると思われる。量は1人1人の食べれる量を考慮し盛り付けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行うように努めている。義歯の方は週に2日薬剤を使用し洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、トイレでの排泄を行っているが、パターンやサインを見逃し、失禁されている所もある。	入居者の排泄状況を記録に残し、入居者それぞれの排泄パターンを把握してできる限りトイレで排泄してもらうよう個別の支援に努めている。排泄用品は業者からアドバイスを受け、できる限り安価なものを購入し、家族の経済的負担の軽減になるよう留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヤクルトやヨーグルト等を摂取して頂き、自然排便を目指しているが、緩下剤の服用で排便を促しているのが現状である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間を決めて入浴して頂いている。入浴を拒否される時は時間をずらしたり翌日に入って頂く等の対応を行っている。なかなか個々に添った支援が出来ていない。	週2回、入居者が入浴できるよう支援し、月曜日から土曜日までを入浴日として準備している。入浴する時間帯の希望に沿う支援は難しいが、浴槽の跨ぎができない方にはシャワー浴に留まらず、介助する人数を増やし、湯船に浸かってゆったりと入浴を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、その日の体調によって休息を促すのではなく決まった時間に休息するような対応しか出来ていない。入居者様の覚醒状況は考慮できていない。しかし、覚醒状況を考慮し休息や入床出来るような対応が少しづつできている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食前、2名にて薬のダブルチェックを行っている。その際、薬名・作用等の確認を行う時もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人での個別での対応は難しい為、季節に応じた全体で楽しめる行事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出かける機会は殆どない。コロナの影響もあり、家族様・地域の方々との交流も殆どないのが現状である。	今年度、花見の時期に同法人の車両を利用して入居者を数人ずつに分けてドライブにて花見をする支援を行った。現在、家族の希望に応じて入居者の親族と一緒に数時間の帰宅ができるよう支援するなど制限を緩和し、家族と外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれている方は、殆ど使う機会がない。グループホームで預り金があり、コロナも落ち着いて来ている為、外出(買い物)を計画している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が家族様へ電話を入れ、本人様に換わっている。個人で携帯を持たれている方もいる。手紙は稀に届くが返事の手紙までは書けていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からの光・熱がありカーテンを設置している。	廊下やフロアに天窓があり、明るい日差しが注ぎ込んでいる。フロアは遮光カーテンで調整し、程良い明るさを保っている。遅出の職員が全体の掃除機かけやモップかけを行い、夜勤職員がトイレ掃除やおむつ類の処理を行い、清潔保持とにおい防止に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員間で話し合い、工夫した座席に座って頂いている。感染予防の為、近くで向かい合った席は極力行わないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物・好みの物を使用されている方は少ない。	入居時に家族へ居室の持ち込み品について説明している。居室は家族の写真が飾られたり、すっきりした居室であったり、入居者にとって落ち着ける生活環境の整備に努めている。居室の物品整理や衣替え等、生活全般の支援は担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前の分かりやすい所に、ネームプレート花を設置したり、迷うことを1つでも少なくなるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200554		
法人名	社会福祉法人 愛隣会		
事業所名	グルーホーム はさみ里		
所在地	長崎県東彼杵郡波佐見町稗木場郷798-1		
自己評価作成日	令和 5年7月14日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとは何か？グループホームで出来る事は何か？ユニットケアとは？をもとに入居者様1人1人に特化したケアを提供させて頂くために、職員が1つの目標立て、どうすれば目標を達成できるのか？を考え検討し他職員と共有しながら、これまで過ごして来られた過程も大切に「当たり前の事を毎日」を少しずつ行っている。各委員会の出席や勉強会、研修への参加も行っている。職員の部署内異動があり、業務優先ではなく各部署からの良い所取りで大幅に業務改善も行っている(途中でもあ
 コロナ感染拡大の為、地域との交流が全く出来ていなかった。今後は以前行っていたように地域との関わりも徐々に増やして行ければと

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 れもん

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念はあるが、申し送り時などで全て読み上げを行っているわけではない。その中の1つ「楽しい雰囲気を作る」という理念は日常生活の中で常に心掛けるようにしている。その他の理念も共有し1つずつ実践につなげられるように努力している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染が拡大する前までは地域との関わりがあったが、コロナ禍で地域との付き合いも殆どない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方のみ認知症の方の行動や支援方法を伝える機会はあるが、地域の人々に向けて活かす事は出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催(昨年1回のみ書面報告)入居者様の日常生活報告・職員の入退職・消防避難訓練報告・事故ヒヤリハット報告・その他質疑応答などを行い、様々な意見を出して頂き少しずつサービスの向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問に思った事や分からない事などは直ぐに連絡し相談するようにしている。又市町村へ提出しなければならない書類など持って行った際、再度同じ事でも聞くようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会への参加を行い、環境面での抜き打ちチェックで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。クリップセンサーやセンサーマット使用の状況表など用いている。何が身体拘束で、どこが身体拘束になるのか研修や勉強会への参加		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会より、自己チェックシート配布などで自己評価を行い虐待に繋がるような言動を見聞きしていないか？アンケートなどで虐待が見過ごされる事が無いようにしている。解決策も提案してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度については学ぶ機会が少なく研修や勉強会も行えていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より担当ケアマネと転落を密に取り、家族様・本人様が何を一番不安に思っているか聞き、入居時に直接尋ねるようにしている。改定時は書面を送付し、更に電話での連絡で再度説明。理解と了承を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望をなど尋ねたり、意見箱を設置している。意見や要望は運営推進会議などで伝えたり、上司へも報告行い運営に反映させるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を聞くために管理者の方から常に声をかけ運営に関する事も聞くようにしている。必要であれば職員会議の時、上司(施設長)も同席したり個々の面談で意見を出す機会がある		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、賞与に関しての説明あり。年度末に人事考課もある。職員会議や緊急ミーティングの時は時間外手当もある。環境面では職員が動きやすいように、職員自ら提案したり不要な物は片付けたり修理も含め整備も少しずつ行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や順番に資格取得、個人個人が行きたいと思う研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川棚・波佐見町のグループホーム協議会への参加。グループホーム協議会の中での職員同士の交流会を行い、他施設の状況や問題点など積極的に出し合い、サービスの質の向上の取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来られた時や自宅を訪問した時に困った事や不安に思っている事を尋ね、その時答えられる事には答える事にしている。答えられなかった事に対しては後日伝えるようにし、関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様への対応と同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時や訪問時に、本人様と家族様、担当ケアマネジャーより、必要としている支援を尋ね、入居時に再度確認のために尋ねる。同じ事を言われた時はそのままサービス対応を行うが、違っていた時は話し合い、優先する内容を見極める		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で何ができるのか？を担当はじめ他職員同士で話し合いながら共有し、洗濯物たたみやお盆拭きなど他入居者様と共に行って頂き、更に出来る事はないか…出来ない所を入居者様同士で助け合ったり関係性を築いている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限がされていたが、5類になり制限も緩和され居室での面会が出来ている。また家族様への連絡など職員が行う際は面会に来て頂けるよう声掛けなど行い、本人様と家族様の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで故郷巡りを行い、自宅前や馴染の場所との関係が途切れないようにしている。ユニットの行き来で、知り合いの入居者様と話したり交流も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ地域であれば、知り合いではないか？共通の知っている人がいないか？など職員が間に入り交流を持って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族様より年賀状が届く。必要に応じての経過フォローや相談支援は今の所ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまで過ごされていた過程を大切に、ケアプラン作成時には意向の把握に努めている。困難時には本人様が家族様に伝えていた事などないか伺い検討も行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や担当ケアマネジャーより情報を聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当制にしているが、担当が中心となり1人1人の過ごし方や心身状態を全職員が共有・把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が作成したケアプラン内容への変更など担当者が意見を出し、本人様・家族様への聞き取りも行いながら、他職種からの意見もケアプランに反映させ計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って、反映させた内容を記入している。見直しの際には、1つの目標と達成できるような計画を立案し職員間で共有し新たな見直しとしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状態や状況に応じ、必ず居室で休むのではなく、ベッドをリビングに出して休んで頂いたりソファで休んで頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源とはなんなのか？を勉強会で行う事から取り組みが必要。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ状態報告を毎月行っている。有症時はその都度、かかりつけ医へ報告し指示を仰ぐ。その他の医療機関への受診が必要となった場合は、家族様も含め面談調整や看護師から家族様への状況説明を行う。本院・家族様の意向を確認し他科受診を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が24時間対応できる体制をとっている。看護師より介護職員に対し、入居者様の日頃の体調や様子の変化・気づきがあれば報告するよう伝達し異常の早期対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に提出するサマリーは介護職員も作成しやすい様式にしている。入院先の医療機関が入居者様の状態を把握できるように努めている。かかりつけへの入院であれば早期に退院できるよう情報共有を行っている。他医療機関の場合、情報収集を行い受け入れ準備している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年1～2回、家族様に対して「看取りに関する意向確認」の書類を用いて確認を行っている。重症化・看取り期に際しては主治医から家族様へ説明あり。補足として、グループホームでできる事・できない事の説明も十分行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の定期的な訓練は行っていないが転倒や発熱時については資料を作成し配布している。初期対応のやり方はその都度伝達している。資料を配布していても、事故など発生した時は気が動転し、その通りに行動できない事が多く訓練が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回消防避難訓練を行っている。コロナ禍の中、地域住民の方との訓練は出来ていない。災害対策のシュミレーションは職員に伝えられているが、実際避難場所へいく事は出来ていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様によっては、方言を使い対応することがある。全体的に敬語を使用しているもスピーチロックに繋がる言動になる事がある。自身や他者の言葉使いや対応の仕方を振り返り改善を目指している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務優先になり、入居者様とゆっくり時間をかけて過ごすことができていない。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴など職員の都合や1日のスケジュールに入居者様を合わせて変更する事がある。入居者様の体調によって睡眠時間が変わってくるが休まれていても朝食だからと起床介助することもある。本人様の体調に合わせ対応するよう指導している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後、化粧水を準備しつけるように促したり、介助が必要な方は介助しているが、できる時とできない時がある。男性入居者様がいる時は髭剃りを促す。整容は行う職員とそうでない職員で分かれている。3ヶ月毎に訪問理容を利用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎや食器洗い・テーブル拭き・お盆を拭いたり入居者様にお願ひし快く行って頂いている。月に数回、甘い手作りのオヤツを作成している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立作成。入居者様の嚥下状態により食事形態を変更し、トロミも本人様に合わせている。食事量・水分量が少ない時は個々の嗜好品等、好みに合わせた物を提供し栄養・水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施。自力で行える方もいる。殆どの方が義歯を使用している。義歯洗浄が不十分な場合は介助行っている。自歯がある場合は職員が磨き直しているが技術が未熟であり十分磨けていない。口腔ティッシュ・スポンジ使用もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて定期的に排泄案内を行っている。トイレでの排泄を希望される入居者様は出来るだけトイレで排泄して頂くようにしている。排泄を失敗される入居者様には尿Pの吸収量を考慮した物の選択や交換するタイミングの検討が必要だが積極的に行えていない		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高度の便秘に対しては看護師が浣腸や摘便で対応しているが、できるだけ自然に近い排便が出来るよう水分量・食事形態の検討・緩下剤の調整を行っている。緩下剤に頼りきっているところもあり、薬剤に頼らない方法の知識の習得が必要。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決まっている。入居者様の希望をかなえられているとはいえない。介助量が多い入居者様に対してはシャワー浴で対応することもある。1人1人にゆっくり入浴できる環境調整・時間調整が必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、その日の体調によって休息を促すのではなく決まった時間に休息するような対応しか出来ていない。入居者様の覚醒状況は考慮できていない。しかし、覚醒状況を考慮し休息や入床出来るような対応が少しづつできている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出血傾向になる薬剤を服用している場合など特に注意が必要な薬もあるため、内服している薬の効果や効能・副作用など必要なことは看護師が介護職員に伝えている。錠剤や散剤など入居者様合わせた形態を主治医・薬局に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器を洗ったり拭いたり、テーブルを拭いたり本人様の能力に合わせ日常生活の中で役割を持って頂き好まれる物のオヤツを提供したり、施設生活の中で笑顔になれるように支援している。季節ごとの行事や誕生会を開催し、職員でお祝いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で家族様との外出・外泊は現在中止している状態であるが、花見やドライブなど可能な外出支援を行い気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれている方は、殆ど使う機会がない。グループホームで預り金があり、コロナも落ち着いて来ている為、外出(買い物)を計画している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様から手紙をもらうことがあり、必要時は代読している。字は書きたくないと返事はされない。電話が掛かって来た際は「お話されませんか？」と声掛けも行っている。電話をしたいと言われる入居者様からの要望がある時は連絡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や誕生会の際はリビングや玄関に飾り付けをしている。天窓から日光が直接当たるため、日よけを設置している。居室にはエアコンあり快適に過ごせるように支援している。冬季の入浴時は、脱衣所と浴室の温度差が最小限になるように電気ストーブを使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、自席以外でも過ごせるようにしている。入居者様と職員が一緒に座り談笑することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた物や家族様の写真、仏壇や遺影等持参して頂き、不安なく安心して過ごして入居出来るように支援している。テレビやラジオなど家族様と相談してからの持参もある。自宅での生活スタイルの情報収集が不十分であり、自宅に近い環境で過ごせるよう支援が必要		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行できる入居者様に対しては必要時手すりを使用したり、靴は踵までしっかり履くように声掛け行っている。車椅子を自操される方に対しては妨げにならないように整理整頓等、動線を確認し安全に移動出来るよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4271200554		
法人名	社会福祉法人 愛隣会		
事業所名	グルーホーム はさみ里		
所在地	長崎県東彼杵郡波佐見町稗木場郷798-1		
自己評価作成日	令和 年 月 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている			

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			